

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「社会の課題と教会」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

主のご復活をお喜び申し上げます。感染症や災害、政情不安などによって困難な生活を余儀なくされている方々に、一日も早く安心した生活を送られる日が来ることをお祈りいたします。

昨年10月の日本聖公会第65(定期)総会において、「原発のない世界を求める週間」の設置が決議されました。日本聖公会では、6月5日の世界環境デー直近の主日を「地球環境のために祈る日」(今年は6月6日)と定めていますが、その日から1週間が「原発のない世界を求める週間」となります。原発問題プロジェクトでオンラインプログラムが企画され、公開部分もありますので、どうぞご参加ください。また、5月3日の憲法記念日を覚え、憲法プロジェクトでは、ことに憲法9条を守ろうと呼びかけ、戦争証言集の第2集を編集中です。

時に、日本聖公会は「政教分離」を守らないのか、政治的なことを発言してもよいのか(信仰生活と政治的活動の分離を明確にし、信仰者や宗教団体が政治的な事柄にかかわってはならない)というお声をいただくことがあります。

自分だけの救い、自分たちの教会だけの救いを求めることが聖公会の信仰ではなく、イエスさまの体と血であるパンとぶどう酒に与ることによって、様々な考えを持つ方々がともに集まり、多様性の一致を目指す共同体がアングリカンコミュニオンに連なる日本聖公会の立場であることを大前提としつつ、正義と平和担当者や人権問題担当者が各教区に置かれ、社会の様々な問題に取り組む部局が各教区に置かれていることを改めて考えさせられます。

「政教分離の原則」は、国家の名のもとに神社参拝を強要して戦争に邁進した過去の反省に基づいて、信教の自由を担保するために、国家と宗教団体の関りについて憲法が規定するものです。信徒や教役者が、教会の教え(神さまと人とを愛するイエスさまの教え)に基づいて、政治に対して発言したり行動したりすることを妨げるものではありません。国内外に正義と愛が広く実行されることを願い、人間の基本的権利や救いについて、政治に関わる事柄に倫理的な判断をすることは、教会の果たすべき大切な務めで

## □会議・プログラム等予定

(2021年4月25日以降・前回未掲載分)

### 4月

- 15日(木) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 15日(木) 祈禱書改正委員会 [Web]
- 16日(金) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 19日(月) 年金資金運用管理チーム会議 [+Web]
- 27日(火) ハラスメント防止・対策担当者会議 [Web]

### 5月

- 7日(金) 教役者給与タスクフォース会議 [Web]
- 9日(日) 青年委員会 [Web]
- 10日(月) 常議員会 [Web]
- 12日(水) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [Web]
- 13日(木) ~23日(日) 米国が来ますようにキャンペーン
- 14日(金) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 14日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会 [Web]
- 17日(月) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 19日(水) 日韓協働委員会 [Web]
- 25日(火) 女性の聖職位に関わる委員会 [Web]
- 26日(水) 日韓協働合同会議 [Web]
- 27日(木) ~28日(金) 新任「人権」研修会 [横浜]
- 30日(日) 「原発はやめようよ」公開プログラム [Web]
- 30日(日) ~6月1日(火) 「原発はやめようよ」オンラインプログラム [前半]

### 6月

- 1日(火) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [管区事務所]
- 5日(土) ハラスメント防止・対策研修会(東日本宣教協働区) [Web]
- 6日(日) ~7日(月) 「原発はやめようよ」オンラインプログラム [後半]
- 8日(火) ~10日(木) 主教会 [ナザレ]

(次頁へ続く)

す。教会のたてられた地域の課題・各教区の課題・日本社会全体の課題、ことに命の尊厳にかかわる課題を、聖餐式の代祷に象徴されるように、教会の課題として祈りの内に取り上げ、福音を届ける務めがあると思います。人間の痛みに敏感に応答し、代弁していくことも、人の心に寄り添う宗教者の大切な働きだからです。

「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」  
(ルカ10:27、聖書協会共同訳)



(前頁より)

22日(火)・23日(水) 沖縄週間・沖縄の旅 [Web]  
24日(木) 財政主査会 [Web]  
26日(土) ハラスメント防止・対策研修会(中日本宣教協働区) [Web]

<関係諸団体会議・他>

4月13日(火) ACT ジャパンフォーラム運営委員会  
5月17日(月) 部キ連総会 [Web]  
25日(火) NCC 役員会 [Web]  
6月15日(火) ACT ジャパンフォーラム運営委員会  
18日(金) 日キ連常任委員会 [Web]  
29日(火) NCC 役員会 [Web]

※新型コロナウイルス対策のため、管区事務所はしばらくの間、就業時間の短縮と隔日出勤(平日 月・水・金は10:00-16:00 出勤、火・木は在宅勤務)を実施します。在宅勤務でもメールの送受信は可能です。

## □主事会議

第65(定期) 総会后第3回 2021年4月8日  
(木)

<主な報告・協議>

- ① 2020年度一般会計決算案について承認し、常議員会に諮ることとした。
- ② 教役者給与支援システムについて、従来は「下から3番目の教区を基準教区として下から2番目以下の教区を支援対象」としてきたが、その順番に変動が起こってきたため、システム開始当初の標準給与額を算定基準とすることで、再度、常議員会に諮ることとした。
- ③ 聖公会センターのエレベーター交換工事について、2社の見積もりと予算処置について改めて検討・承認し、常議員会に諮ることとした。

次回会議:7月1日(木)

## □常議員会

第65(定期) 総会后第5回 2021年4月13日  
(火)

<主な報告・協議>

- ① 2020年度一般会計決算案に関して、財政主事より説明を受け、承認した。
  - ② 入管法改悪に反対する「教会共同声明」へ賛同(3月17日メール稟議済)に関して、追認した。
  - ③ 宗教法人「日本聖公会横浜教区」規則の一部変更(役員の失格・成年被後見人)に関して、承認した。
  - ④ 聖公会センターのエレベーター改修工事に関して、2社の見積もりと資金計画について検討し、承認した。
  - ⑤ 教役者給与支援システムに関して、システム開始当初の標準給与額を算定基準とする再定案を財政主査会・主事会議から受けたが、新たに日を設けて検討することとした。
- 次回以降の会議:5月10日(月)、7月6日(火)、10月25日(月)

## □各教区

### 北海道

- ・聖職按手式 5月15日(土) 13時 日本聖公会北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会) 説教:司祭 ペテロ大町信也 司祭按手

志願者：執事 ノア上平更

### 東北

- 第104(臨時)教区会の日程(2021年5月8日)を変更し、あらためて以下のように招集する。  
第104(臨時)教区会 2021年5月22日(土)  
13時～16時 開会聖餐式：盛岡聖公会礼拝堂 議場：アートホテル盛岡 議題：十和田ヴァイアル山荘改築の件

＊新型コロナウイルス感染症拡大に伴う常置委員会の判断。

＊感染状況によりWeb(リモート開催) / 書面決議となる可能性あり。

### 九州

- 聖職按手式 4月29日(木・祝) 11時 日本聖公会九州教区 主教座聖堂 福岡聖パウロ教会 司式：主教 ルカ武藤謙一 説教：司祭 バルナバ牛島幹夫 執事按手志願者：聖職候補生 マグダラのマリヤ島優子

†逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ミカエル浅見卓司(北関東・退) 2021年4月14日(水) (70歳)

聖職候補生 オーガスチン戸枝正樹(東北) 2021年4月23日(金) (72歳)



## 《人事》

### 東京

パウロ福永澄	2021年3月3日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。
司祭 フランシス下条裕章	2021年3月31日付	教区事務所総主事の任を解く。
司祭 セラピム高橋 顕	2021年3月31日付	教区主教秘書の任を解く。
	2021年4月1日付	教区事務所総主事に任命する。
	2021年4月30日付	牛込聖公会聖バルナバ教会管理牧師の任を解く。
司祭 ダビデ倉澤一太郎	2021年4月1日付	教区事務所教務主事に任命する。

## 《教会・施設》

室根聖ナタナエル教会(東北) 2021年4月1日付 郵便等送付先→東北教区教区事務所付(学) 聖公会マルコ学園 新庄聖マルコ幼稚園(東北) 2021年3月31日付 閉園

## Happy Easter



## 2021年 沖縄週間／沖縄の旅 オンラインにて開催

正義と平和委員会・沖縄プロジェクト 司祭 サムエル 小林祐二

この原稿を執筆している4月半ば現在、新型コロナウイルスの感染状況は未だ終息に向かっているとは言いがたい状況です。この状況に鑑み、沖縄プロジェクトでは昨年に引き続き本年も「沖縄週間／沖縄の旅」をオンラインにて開催することといたしました。沖縄を訪ねることが困難であっても、日本聖公会に連なる兄弟姉妹の皆さまとともに沖縄週間を過ごしたく、その内容について鋭意準備を進めております。

テーマ、主題聖句は昨年からの継続とし、2夜の日程としました。

テーマ：「命どう宝～無関心に気づく～」

主題聖句：「わたしは知っている」(アモス書5:12)

日程：6月22日(火) および23日(水)、

それぞれ19:00から各90分

22日は主に沖縄の歴史に聴きます。沖縄県の運営する『沖縄平和学習アーカイブ』から沖縄戦

の証言を聴き、思いを分かち合い、沖縄慰霊の日の前夜の祈りをささげたいと思います。

23日は沖縄の現在に聴きます。沖縄教区スタッフの生活のなかからの発題を受け、わたしたちの信仰において、また日常のなかで、神様が望んでおられる平和を証する糧となるひとときとなれば幸いです。

昨年の「沖縄の旅 Zoomプログラム」には多くの方々にご参加いただきましたが、準備不足や不慣れな点も多くありました。本年はその反省に立ってプログラムを備え、またインターネット環境の整わない方にもプログラムの録画をDVDにて郵送することも検討しております。

後日発送・配信するポスターや案内用紙をご覧ください、ぜひご参加くださるよう、おさそいいたします。

### 特集・神学校から

## 2021年度の神学教育～奉仕の業を整えるために～

聖公会神学院 校長 司祭 アンデレ 中村 邦介

こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適したものとされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、私たちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

(エフェソ4章11-13節)

いつも皆様のお祈りとご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

依然としてコロナ・ウイルス感染拡大の様相が続いている中で、今年も新学期を迎えました。昨年は入学式を5月にまで延期せざるを得ませんでしたが、今年も予定通り4月5日(月)に行なうことができました。12日(月)から本格的に授

業が始まっています。

今年度の入学者は本科に中山泰男氏(九州教区)、信徒の奉仕・召命コースには小河佳子氏(北海道教区から横浜教区に転籍)、昨年信徒の奉仕・召命コースで学ばれた染谷孝章氏(横浜教区)は本科2年次に編入されました。在校生2年次の福永澄氏(東京教区)と併せて学生は総勢4名の体制で今学期は進行していくこととなります。昨年同様に神学院内に居住する教員は対面授業、外部の非常勤の先生方は原則(自動車での来校者は除く)ズームによるオン・ライン授業となります。実習などを今後どのように実施するのか現在検討中です。昨年度以来、神学院全体では、感染予防に消毒・手洗い・マスク・換気・検温などは勿論ですが、外出自粛また感染した場合に備えて外出記録(日記)を記すことにしています。食事は黙食と全員座席を窓側向きに座するという方法や自室以外構内では必ずマスクを着用するなど、日常で可能な限りの対策を講じています。このように確かにコロナ禍の影響はありますが、授業も生活も大きな支障もなく今のところ順調に過ごしています。

### 新たな取り組み

今年度の予定を少しご報告しますと、幾つかの新たな取り組みを計画しています。2018年度から開始された「継続教育コース」は今年度も門戸を開いていますので、ご希望の方は期間を問いませんので、必要な時に本校に滞在して是非研究休暇をとって頂きたいと思えます。後ほど少し触れさせていただきますが、教役者の研究休暇は今後ますます必要な事案です。また昨年中止した「神学研究会」また「特別研修(スタディ・ツアー)」は来年の2月～3月の期間で実施する予定です。特別研修は長崎を中心に、ウィリアムズ主教の足跡を訪ね、長崎の平和学習に学び、「潜伏キリシタン」の歴史と信仰を辿ることを考えています。そして本年特に予定している特別プログラムとしては、聖公会神学院創立110周年という記念すべき年度を迎えて、一つは「記念

講演会」を開催します。本校と深い親交のある海外からのゲストを招待して「記念講演」を開催すること。同時に校友会との協賛によって、できれば「教役者研修会(一泊二日程度)」を実施したいと願っています。これらの行事はコロナ・ウイルスの感染状況によって果たして開催可能かどうか判断することになりますが、是非実現したいと念願しています。その他10月には信徒向けに「オープン・キャンパス週間」の企画も予定しています。日頃なかなか敷居の高い学内の様子を見学する機会を用意したいと思います。ミニ講演会や礼拝なども学生と共に参加できるように企画を考えています。

### 奉仕職の形成に不可欠な共同生活の場として

さて今般のコロナ・ウイルス感染拡大の事態を通して、改めて考えさせられた幾つかのことがありました。一つは神学教育における学寮システムの意味です。これは矛盾するようですが、オン・ラインによる教育の意味を過小評価するものではありません。むしろそれは教育方法として今後ますます重要な課題となることは疑いありません。しかし、にもかかわらず学寮による教育は、現在のような状況にあってはますます貴重なそして贅沢ともいえる教育体制であることを日々痛感しています。寮生活を基盤にして共に学び、共に食事をし、共に礼拝する教育共同体は、まさに全人教育にふさわしい意識のレベルから無意識にまで包み込む相互交流の得難い基盤です。これは比喩的表現ですが、物事を早くできる人・しかし雑なやり方の人、ゆっくりにはできないがとても丁寧にできる人、まさに多様な人々の個性に気づかされる相互啓発をもたらします。確かに現実には相互豊富化というよりも、相互相克的な生々しい場面がたとえ避け得ないとしても、神を仰ぎつつ隣人を顧みる生き方の形成を目指して、神学教育にとって不可欠な環境です。歴史的にみると、このような寮生活を基盤とした神学教育は19世紀半ばから英国では一般的な形態になりました。残念ながら現在

の英国ではダラムやカデストーンを除く大部分の神学校が閉鎖されることになりましたが、一時期1970年代に通学(土・日)制に基づく神学教育として注目を集めたL.グリーンによる「アストン神学センター」なども思いの外短命の内に終息しました。基本的に学寮制による神学教育の持つ意味はやはり代替できないのだと思います。日本聖公会も「宣教協働区」「伝道教区制」などに取り組む課題の中で、ますますチーム・ミニストリーの要請が強まる中で、神の民としての協働性や団体性を前提にした奉仕職の形成のためには、このような共同生活の経験が不可欠なものとなるはずで

す。コロナ禍の中でもう一つ痛感していることは、いわゆる一般には「リカレント教育」と呼ばれるものについてです。最近の聖公会ニュースでタミル・ナドゥーにある神学校が聖職者に10年間に一度の再教育のプログラムを開始したと伝えられています。激変する時代状況の中で、医師や看護師は常にその専門性をアップ・デートしなければなりません。いわゆる専門職は教師を含めて、絶えず再教育を受ける機会を必要としています。この点で聖職はどうでしょうか。キリスト教や教会の伝統に依拠している職業だからとか、真理は永遠に変わらないからという理由で、かつて学んだ知識や理解に多少の修正を加えたまま胡坐をかいていないでしょうか。実際の司牧・宣教の現場は多忙を極め、人手不足に悩んでいる現況の中で、確かにそれは必要なことで

あるけれど、とても学び直すような余裕は見いだせない、と考えられているかもしれません。しかし、それでは今日教会に問われ託されている働きをクリエイティブに担うことは到底できなくなります。慣習的で場当たりの働き方では、宣教・牧会に新たな活力が生まれることは困難です。これはただ主教の裁量に委ねられる事項ではなく、各教区・教会が信仰共同体として真剣に取り組むべき課題であると思います。あらゆる機会を通じて聖職はエンパワーメントを受ける必要があります。

最後に神学院では奉仕職形成のための大きな課題として、改めて「実習(フィールド・エデュケーション)」の検討があります。神学院は70年代の大きな教育改革の柱として実習教育を掲げました。神学生が教室や教科書だけで学ぶのではなく、生きている人々や世界の現実から学ぶことを目指しました。これは経験学習として大きな意味をもっていますが、ただ実習がやや一般化して神学生一人一人の個別的な経験の内省の深化や奉仕職に向かう者としての召命感の識別としては不足感が否めないのです。これは受講する神学生の問題というのではなく、神学院としての実習に対する主体性の欠如や実習の神学や方法の問題です。これについては最近の看護教育やサービス・ラーニングなどの知見と経験などからも学びながら、新たに再検討したいと考えています。

## 『聖公会手帳』2022年度版発行に当たってのお願い

『聖公会手帳』巻末の特集欄では、日本聖公会が幅広く関わる学術・教育・文化・医療・福祉などの諸分野にわたる社会的活動を〈事業紹介〉として掲載してまいりました(『聖公会手帳2021』382～409頁を参照)。現在編集集中の2022年度版『聖公会手帳』では、この

〈事業紹介〉の趣旨に賛同し出稿していただける事業所を新たに募集しております。記事掲載の申し込み・詳細等について管区事務所にお問い合わせください。2021年7月15日までにお願いいたします。

☎ 03-5228-3171 (総務主事または広報主事宛)

**特集・神学校から****2021年度のウィリアムス神学館**

## —観想的なひとへ—

ウィリアムス神学館 館長 司祭 ヨハネ 黒田 裕

**入学礼拝について**

この原稿を執筆している現在、新型コロナウイルス（※以下、「コロナ」とのみ表記）の蔓延防止等重点措置が出されたところである。この感染症で逝去された方々の魂の平安とご遺族への慰め、療養されている方々に主の癒しがありますように、また全力で取り組んでおられる医療従事者をはじめとする現場の方々とそのご家族、そして罹患された方々のご家族に主のみ守りがあるよう心からお祈り申し上げます。

そのようななか新年度の入学礼拝は昨年同様、例年参列者も比較的少数であるため、対策を講じた上で予定通りの日程で執り行なうこととした。こうして4月7日（水）、2021年度の入学礼拝が執り行なわれ、本科生2名の入学者と大阪教区からの科目聴講生1名を迎えることができた。在校生の4名とあわせ本科生は6名となり、より賑やかになったことに加え、ジェンダーバランスの面でも好ましい状況となり、スタッフ一同喜んでいる。

**新年度を迎えて**

前年度に引き続き、今年度も新たな先生方をお迎えすることができた。「ヘブライ語I」は本館司書の宮田玲先生（同志社大他非常勤講師）に、「日本キリスト教史」は中原康貴司祭（神戸教区・高知聖パウロ教会牧師）に、それぞれ担当いただくこととなった。また、カリキュラムの改訂は随時行なっているのだが、今年度はレポートの作成指導と哲学入門およびキリスト教倫理を併せ持つ「神学基礎演習」を従来の「文献講読」に替えて1年次配当科目とし、濱崎雅孝本館教授に担当いただくこととなった。また、昨年度

は残念ながら中止となった「今さら聞けない!!キリスト教」だが、前回予定していた講座と同様、講師に嶺重淑本館教授（関西学院大教授）をお迎えし、「新約思想編」をテーマに開講することとした。なお、過去の講座（2016-2019年度）も随時視聴可能である。詳しくは本館に直接ご連絡いただくか、公式HP「キリスト教講座」のページをご覧ください。

**観想的なひとへ**

3年前に本館の海外研修で訪問した米国ヴァージニア神学校（VTS）のD.Min（ドクター・オブ・ミニストリー）コースで、日本での館長職と並行して学ぶ生活も2年目に入った。働きながらの学びは苦労も多いが、知的な面に留まらない多くの刺激を受け、視野が広がられている。殊に「クリスチャン・スピリチュアリティ」トラックで学んでいるため、霊性神学に関する示唆には大きいものがあり、昨秋から神学校生活にさっそく還元している。具体的には、昨年8月の終わりに予定されていた館外での宿泊研修がコロナ禍により中止となったため、急遽代替プログラムとして「神学教育と霊性の形成」と題したフォーラムを学内で行なった。そのプログラムに基づいて、週1回行なわれてきた「聖書研究」の時間を2学期からは「聖書黙想（レクティオ・ディヴィナ）」とし、VTSのテキストのひとつを用いて黙想会を行なっている。このトラックで学び得たものはすでに数多いのだが、今のところ最も大きい収穫は、「観想」の新たな洞察として、半世紀ほど前に登場した“A long, loving look at the real”という表現を知ったことである。継続的・永続的に霊的な小径を歩みつつ、神の愛のうちに、“ほんと

うのこと”を見つめる。この”the real”には、神と神における現実はもちろんのこと、神との関係における真の自己(祈りに集中できない自分や傲慢な自分、欠けのある自分や傷ついた自分も含まれる)や、他者との連帯性における自己といったかなり広がりのある現実性が含意されている。また、そこにおいて、現代の霊性神学は、ある種の自己覚知あるいはアンガーマネジメント(怒りの感情と上手につきあう心理トレーニング)をも時に射程に入れている。さらには、この観想は、聖書や諸現実の神学的解釈と軌を一にするがゆえに、この次元において日々の礼拝と神学諸科との総合の契機をもちしている。

そこから神学教育を眺望してみるとおおよそ次のように言いうるであろう。まず神学校生活全体を、教会奉仕者となることに向けた霊的な旅のはじまりと捉える。そこでは祈りと学びと生活を通して観想的なひとへと涵養されることが期待される。その経路は、本館の教育「道を伝えて、己を伝えず」の径であり、それはまたくりかえし同じ場所を通るよう(スパイラル)に見えつつ、全体としては聖餐式がヴィジョンとして提示しているような「み子が再び来られるまで」(祈禱書175頁) 続く終末論的な緊張と方向性を持っている。そうした霊的な旅はまた、ヴィア・メディアの途ともいえる。両極のどちらに組みすることもなく、それらを越えた先に真理を見出し、両極を和解的に橋渡しする使命を帯び、神との関係において他者と連帯する道行き、ということができる。

### 今年度の取り組みは

以上のようなコンセプトに基づいて、今年度は、従来の「聖書研究」を全面的に「聖書黙想」とした。さらにこのプログラムから示唆を受けた神学生たちの霊的な歩みをサポートする「スピリチュアル・ディレクター」を、本館聖職教授と近隣の同労聖職にお願いしている。また、このプログラムのテキストは英書であるため、上述した昨年度の黙想ではスタッフが抄訳を作成し、黙想指導もスタッフが行なったのだが、使用テキストの豊かさと深さを考慮すると1回限りでは消化

しきれなかったのも確かである。加えて、実際に黙想指導を体験することが必要とも判断したため、今年度は同じテキストを再度使用しつつ、神学生たちが交代で黙想指導の経験を積めるようにしている。

なお、先述したVTSのテキストのうち本館の図書館に相応しいと思われるものは随時蔵書に加えているが、当面のあいだ「VTS文庫」と称したコーナーを設置、まとめて配架し、興味に従って神学生たちが手にとれるようにしている。霊性神学に関わる書籍が多いが、聖書学や組織神学、新たな解放の神学や聖公会論に関する、おそらく最新と呼びうる文献も揃っており、神学生たちの知的、霊的な刺激になれば幸いである。

### 神学館の課題

紙幅の関係でここでは一点だけ申し上げたい。すでに経常化して久しいのだが、低金利時代が続き基金が果実をほとんど生まなくなっていることから、依然として財政難の状態は変わっていない。後援会への入会の呼びかけと神学館の教育内容のアピールのため2年前には大阪教区の諸教会を巡っていたが、これもコロナの影響で現在はストップしている。今後とも神さまのみ旨にかなう神学教育のため皆様のご加禱、ご支援をよろしくお願いいたします。

### 聖公書店業務引継ぎ先のご案内

日本聖書協会直営聖公書店は、2021年4月末日に閉店。聖公書店閉店に伴い、販売業務はバイブルハウス南青山(日本聖書協会直営通販専門書店)が引き継ぎます。

引継ぎ先:「バイブルハウス南青山」

住所:〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3567-1995 / FAX:03-3567-4435

e-mail: biblehouse@bible.or.jp

e-shop: <http://biblehouse.jp/>

聖公会手帳・礼拝用書等はネットでのご注文も承ります。



## 『Thy Kingdom come (み国が来ますように)』の祈りに 参加しましょう！

主教会 担当主教 オーガスチン小林 尚明

『Thy Kingdom come (み国が来ますように)』は、昇天日から聖霊降臨日にかけて行なわれる、世界的な祈りの運動に付けられたタイトルです。この運動は、2016年にイギリス国教会に向けて発せられたカンタベリー大主教とヨーク大主教の呼びかけによって始められ、世界的な運動に成長しています。そして、『み国が来ますように』を祈るすべての人々がイエスさまとの交わりを深め、イエスさまの証人となるための自信を新たに、他の人をイエスさまのもとに導くことを目的とします。

この運動のことを2019年2月にカンタベリー大聖堂に新任主教研修で訪れた時に勧められました。日本に帰ってから、6月の主教会で報告しますと、「それでは小林主教さんが担当になってください」ということで、数名の方々と相談しながら準備しました。そして、なんとか形にして、10月の主教会に提案して、昨年の同時期に、日本聖公会としてこの運動に参加することになりました。ただ、昨年はコロナウイルス感染拡大のため、信徒のみなさんに十分説明する時間がなかったように感じました。そこで今年は、準備を早めて、4月の最終日曜日には、各教会に配布が終えるように準備をしています。

今年は、昇天日(5/13)から聖霊降臨日(5/23)までの11日間の「み国が来ますように」の祈りに参加します。各教区で取り組みは違いますが、神戸教区では、現在堅信受領者数の「祈りのしおり」と「送り状(説明文)」とポスターを各教会に届けています。今年の黙想と祈りを導いてくださいますのは、ヨーク管区スティーブン・コットレル

大主教です。大主教も今回のコロナ禍の中、ロックダウンを経験され、閉じ込められた体験と弟子たちがユダヤ人を恐れて閉じこもっていた(ヨハネ20章) 経験を重ね合わせ、聖霊なる神様が与えられる恵みへと導いてくださいます。

昨年、使い方がよくわからなかったという声を聞きました。そこで、今年は事前にモニターの方、数名に実際の祈りを行なっていただきました。その感想を聞いて、しおりの使い方について、少し説明しておきたいと思います。今年は、5名のために祈ることが、少し後退して、自分とイエス様の交わりが深まることが前面に出ていま

Thy Kingdom Come  
「み国が来ますように」  
キャンペーン

NSKK 日本聖公会

あなたの霊によって  
私たちを新たにしてください

5月13日(木) 昇天日〜  
5月23日(日) 聖霊降臨日

5/13(木)の昇天日から5/23(日)の聖霊降臨日までの11日間、  
「祈りのしおり」(管区事務所HPにも掲載)を活用して、クリスチャン  
に導きたい家族、友人、知人5名を覚えて祈りましょう。

イエス・キリストの父なる神よ、『み国が来ますように』の祈りに、  
わたしたち日本聖公会が参加できますことを感謝します。どうかこの時  
にあたり、わたしたちが祈ることを通して主イエスとの交わりを深め、  
主を力強く証しすることができるようにしてください。またわたしたち  
の覚える5人の友を聖霊によって導き、この人々が主イエス・キリスト  
に出会い、主を信じることができるようにしてください。主は父と聖霊  
とともに一体であって世々に生き支配しておられます。アーメン

(主教会作成の祈りです。  
5/13(木)の復活節第7主日(昇天後主日)  
の代祷のはじめに、また日々の祈りの時にも  
おささげください。)

Thy Kingdom come  
のウェブサイトには、  
日本語のページも  
用意されています。  
祈りの登録や各種資料も準備されています。  
<https://www.thykingdomcome.global/>

〈み国が来ますように〉キャンペーンのポスター

す。これを理解した上で、5名の選び方です。未信徒の方は、勿論、今教会から少し離れている信徒の方を祈ってくださってもかまいません。また5名と言いますが、1本線を足して、6名でもかまいません。4名でも。このしおりを使って自由にお祈りください。

また、1人で祈るのもいいですが、特定の方を数人で祈ってもいいと思います。教会の中でグループを作って祈ったり、インターネットでグループを作り、みんなで祈ってみるのも励みになるで

しょう。「各教会の牧師さんが使い方を説明してくれたらいいのに」という感想も聴きました。教役者の皆さんも事前に祈ってみて、信徒の皆さんに指導をお願いします。

『み国が来ますように』と祈ることで、私たちは全員、国々の、そしてそれぞれのコミュニティの再生への祈りの一部を担うことになるのです」と、ジャスティン・ウェルビー、カンタベリー大主教が述べられています。

## 教会の声 / 読者の声

「教会の声 / 読者の声」欄への寄稿をお待ちします。内容・字数は自由。執筆者名・教会名を明記して郵便またはメールでお送りください。宛先は管区事務所・広報主事。(com-sec.po. @ nskk.org)

## 「舟」 短歌 16 首

司祭 齊藤昭一 (退職・仙台)

墮落せし不法の世にノアの無垢  
箱舟造り神は命ぜり

大漁に仲間の舟に頼みしも  
二艘の舟に魚あふれたり

神の命ノア従順に舟造り  
嘲笑に耐え箱舟造れり

舟の中シモン主イエスにひれ伏して  
わたしは罪ある者と告白せり

主は雨降らせ地上のもの滅ぼすと  
皆箱舟に入り生きのびよと

主イエス シモン、アンデレに人間を  
とる漁師にすると召されたり

四十日の雨洪水となり舟浮かぶ  
入りしもの皆救われたり

漁師ヤコブ、ヨハネを主招きしに  
舟と父を残して従えり

ガリラヤ湖漁師の舟に主イエス  
腰を下して群衆に教う

嵐吹く舟の中で主は眠られ  
弟子たち恐れ主は風を叱れり

主イエス シモンの舟を沖へ出し  
網を下ろして漁しなさいと

弟子たちの舟逆風に悩まされ  
主は湖上を歩いて行かれた

夜通しの不漁のシモン御言葉に  
沖へと舟を漕ぎ出だせり

復活の主舟の右に網を下せと  
大漁の魚弟子たちと食せり

舟沖へ漕ぎいだし網下せしに  
網破るるばかり大漁となれり

聖パウロ舟にて各地に伝道し  
最後は舟でローマ目指せり

## 新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

### 北海道教区 礼拝（公禱）の休止なし

- 教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行かない、誰でも参加可能。
- 礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

### 東北教区 礼拝（公禱）の再開

- 主日礼拝等については、2020/6/7より再開しているが、地域によって動きの違いはある。引き続き十分な感染対策を取る。
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- 仙台地区は「宮城県・仙台市緊急事態宣言」発出により3/26～4/18迄公開礼拝は休止とする。山形聖ペテロ教会も仙台地区同様。
- 5月8日予定の臨時教区会を5/22に延期する。

### 北関東教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- 各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

### 東京教区 礼拝（公禱）は再休止中

- 礼拝について、公開での礼拝は2020/12/27以降休止中。
- 葬儀および礼拝堂の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの教会・礼拝堂の状況にあわせて、実施可能。
- インターネットによる礼拝等の配信をおこなっている教会がある。

### 横浜教区 礼拝（公禱）の公開または公開 休止

- 「礼拝指針」の徹底。
- 「新型コロナウイルス感染症発生時の教会対応ガイドライン」の順守。
- 在籍外の教会、また教区を越えての礼拝出席は控える。
- 東京都に隣接する神奈川県および千葉県に在住で健康に不安のある人は公共交通機関を利用しての来教を控える。
- 引き続き、ウイルス感染再拡大への対応とし

て、それぞれの教会または地域の感染状況により、各教会で礼拝の公開休止の判断をする。

### 中部教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- 主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- 緊急事態宣言下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。

### 京都教区 各教会で判断

- 京都市内はまん延防止等重点措置の対象になった。これにより聖餐式を行なわない教会もある。

### 大阪教区 礼拝（公禱）の中止の選択を支持

- 「命を護りあうこと」「教会の社会的責任を大切にすること」を確認しつつ、公禱の中止を選択することを支持する。

### 神戸教区 礼拝（公禱）の再開

- 教区内の教会・伝道所は聖餐式（一種陪餐または前部、み言葉の礼拝）を行なっている。
- まん延防止等重点措置に適用された神戸市内の一部の教会は礼拝を自粛。

### 九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

- 無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

### 沖縄教区 礼拝（公禱）の休止

- まん延防止等重点措置が取られている間、本島内の全教会の礼拝を休止。5/5まで。

### 管区事務所

- 2020/11/25よりしばらくの間、就業時間の短縮と隔日出勤（平日 月・水・金は10:00-16:30で出勤、火・木は在宅勤務）。
- 在宅勤務でもメールの送受信は可能。緊急の場合は管区事務所総主事の司祭 矢萩新一まで。

(2021年4月16日現在)



今、声をあげよう。

日本国憲法の「愛」を失う前に。

日本国憲法は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発露たる憲政の原則を堅持し、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 戦後の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

日本国憲法に課するすべての国民的責任が、憲法尊重の義務に尽き、「平和を愛する人々の願い」に受け継がれたいように、祈ります。その心を込めて、日本聖公会から「原爆の日」追悼、追善、祈りの機会を設けたいと考えています。

## 「原発のない世界を求める週間」

6/6 Sun ~ 6/12 Sat

関連企画

### オンラインフォーラム『原発はやめようよ』

前半 5月30日(日) ~ 6月1日(火)

5/30 公開プログラム (YouTubeライブ配信)

15:30 ~ 16:00 開会の祈り・メッセージ  
16:00 ~ 18:00 講演

「考えること悩むことは、いのちに向き合うこと  
~福島からのメッセージ」

講師：片岡 輝美 さん (会津放射能情報センター代表)

※以下のプログラムは、各教区代表者のみご参加いただけます

5/31	フォーラム1	「教会とエネルギー」
	フォーラム2	「核のゴミ」と「原発事故」
	分かち合い	「私たちの教区、教会の姿」 ほか

後半 6月6日(日) ~ 6月7日(日)

6/6	フォーラム3	「再生可能エネルギーの活用」
6/7	フォーラム4	「私たちにできること・私たちの責任」
	フォーラム5	「私たちの教区・教会での働き」

### 地球環境のために 祈る日

6/6

「世界環境デー」(6/5)  
直近の主日

※「地球環境のための祈り」  
(各教区/地区/中核)を  
お知らせください

2021年  
日本聖公会

100%  
自然エネルギー

日本聖公会「正義と平和委員会」  
原発問題プロジェクト

日本聖公会管区事務所ホームページ  
<http://www.nskk.org/province/>  
 ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。